

十一月一日より實施



所行通小原松書課
發和歌山縣秘書人慶三
印刷所和歌山縣印刷所
定價50銭

11月1日より
對面交通實施

歲出は昭和六年基準二三四倍

財政を壓迫する絶え間なき水禍

和歌山縣の財政事情については昨年五月及び十二月に公表され引續いて本年五月に第三回目の公表がなされた。いまその報告書を抽出し、總生産額と比較して縣財政の事情について統計的にこれを考察してみよう。

A 生産指數と歲出指數

歲出は二三四倍

昭和二十一年度一般

會計歲出は

三年度一般

基準年（昭和六年）の

三四倍に

達した、いま災害復舊費を除くと二五倍

で財政價値の指數は物價指數とほど同様を表わしている、一般會計歲出は大正末期から昭和六年までは五百萬圓台であった、昭和七年九年にかけてはかの時局に救事業が施設されたが、基準年の一、五倍に留まりつゞいて中央の緊縮政策は昭和十六年まで持続され本縣においても災害復舊費を除いては一、五倍と成功を收めている。

（第66號）(昭和23年3月24日)
(第3種郵便物認可)

THE WAKAYAMAKEMMINNOTOMO

昭和24年10月21日發行 (旬刊)

至つた。昭和十六年基準の歲出指數は生産指數を割るにあつては、昭和十五年を除いては一、五倍と増を余儀なくされ、ついに生産指數を割るに

生産指數と歲出指數

は、物價の騰貴による給與の增加である。いま

本縣財政へのインフレーションは昭和二十一年度においてロコツ

は、物價の騰貴による給與の增加である。いま

人は右を通りましよ

(昭和24年3月24日)
(第66号)

和歌山県の友

昭和24年10月21日発行

(4)

味覺の秋(二)

岡田康雄

「柿は上品な菓子にして味い及ぶものなし」

と幕末の農哲宮崎安貞は簡明卒直に柿の真價を讃美して居る。

柿は我國獨特の天來の美果であつて色は目に良く味は口に良くそのゆたかな甘味は食生活と結び柿澱と葉の煎汁は衣類の染料として古來吾々の祖先と密接なつながりを持つて今日に至つて居る。從つて柿を愛好することは傳統の遺傳質として血の中に流れ居るのか、柿の味ほど大衆に親しまれる果物はあるまい。

芭蕉は「里古りて柿の木持たぬ家もなし」

「日本の國は柿の木を

見渡すに旅行することは出来ない」というそ

で、芭蕉の名吟も柿の木持たぬ家もなし

とやつて居るが、我國

を旅行した外國人は

「日本の國は柿の木を

見渡すに旅行することは出来